

金沢大学附属図書館外部評価報告書

平成28年3月

金沢大学附属図書館

はじめに

本報告書は、平成 27 年度に金沢大学附属図書館が実施した外部評価の報告書です。本附属図書館では、今までにも自己点検・評価報告書を作成したことはありましたが、外部者による点検評価を受けたことがなく、それが一つの懸案事項になっていました。ちょうど平成 26 年度は、前回行った自己点検評価から 6 年目に当たり、平成 21～26 年度の活動に対する自己点検評価報告書を作成することとなっていました。そこで、その報告書をもとに翌 27 年度に外部評価を実施することとした次第です。

今回の外部評価では、名古屋大学附属図書館の森仁志館長、金沢市立玉川図書館の仙石正美館長、九州大学基幹教育院人文社会科学部門の山田政寛准教授、富山大学学術情報部の高島学部長の 4 氏に委員をお願いし（所属・肩書は委員委嘱当時）、あらかじめ送付した自己点検・評価報告書や各種資料をご検討いただいたうえで、平成 28 年 1 月 7 日にヒアリングと実地調査を行っていただきました。本報告書は、このような活動を踏まえてまとめられたものです。

先述のように自己点検・評価報告書は、平成 21～26 年度の本附属図書館の活動についてまとめたものであるため、平成 27 年度の活動が含まれていませんでした。しかしながら、平成 27 年度に改善された項目が少なからずありました。そこで、ヒアリング当日の館長からの自己点検・評価報告書の概要説明のなかに平成 27 年度の新たな状況を盛り込むこととしました（これについては本報告書の 4 を参照のこと）。したがって、各委員の評価は平成 27 年度の状況を踏まえたものとなっており、本報告書を手に取られた皆様にはこの点を念頭にお読みいただければと思います。

各委員の外部評価の取りまとめに当たっては、当初、提出していただいた報告書から項目別に評価をピックアップして並び替えることを考えていました。しかし、報告書に目を通したところ、それぞれの委員のお立場が分からないと理解できないところがあることから、個々の報告書をそのまま掲載することにいたしました。この点、方針がきちんと定まっておらず、委員の皆様事前に説明できておりませんでしたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。また、ご多忙にもかかわらず外部評価委員をお引き受けいただいた皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

本報告書に盛り込まれております提言は、積極的に取り入れさせていただきたく思いましたが、残念ながら私は今年度末を以て館長を退任することとなりました。そのため、提言は次期館長に託させていただくこととなります。少し心残りではありますが、前向きにご検討いただけるものと信じております。最後に本報告書の最終確認が館長としてのほぼ最後の仕事となりましたことをここに記し、本拙文を締めくくらせていただきます。

平成 28 年 3 月

附属図書館長 古 畑 徹

外部評価報告書目次

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
目次	・ ・ ・ ・ ・ 2
1. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会開催日時・次第	・ ・ ・ ・ ・ 3
2. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会委員名簿及び出席者	・ ・ ・ ・ ・ 3
3. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会議事要旨	・ ・ ・ ・ ・ 4
4. 金沢大学附属図書館の現状と課題	・ ・ ・ ・ ・ 5
5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足	・ ・ ・ ・ ・ 20
6. 評価・提言	・ ・ ・ ・ ・ 23
7. 平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・外部評価実施要領	・ ・ ・ ・ ・ 33

1. 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会開催日時・次第

日時：平成 28 年 1 月 7 日（木） 9：30～12：00／13：00～15：00

場所：金沢大学附属図書館中央図書館会議室

議事次第

開会

金沢大学附属図書館長あいさつ

委員長の選出

金沢大学附属図書館の現状と課題報告

質疑応答

外部評価委員の意見交換

講評

閉会

図書館視察（希望者のみ）

配付資料

資料 1 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会次第

資料 2 平成 27 年度附属図書館自己点検・評価及び外部評価実施要領

資料 3 平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員名簿

資料 4 金沢大学附属図書館自己点検・評価報告書（平成 27 年 11 月）

資料 5 金沢大学附属図書館概要 2015

資料 6 こだま（金沢大学附属図書館報） 第 186 号・187 号

資料 7 金沢大学附属図書館利用ガイド

2. 委員名簿

森 仁志 名古屋大学附属図書館長／大学院生命農学研究科教授

仙石 正美 金沢市立玉川図書館長

山田 政寛 九州大学基幹教育院人文社会科学部門准教授

高島 学 富山大学学術情報部長

その他出席者

古畑 徹 金沢大学附属図書館長

伊藤 秀一	金沢大学附属図書館副館長
尾崎 紀之	金沢大学医学図書館長
上地 進	金沢大学情報部長
土田 浩	金沢大学情報部情報企画課長
橋 洋平	金沢大学情報部情報サービス課長

3. 議事要旨

古畑徹金沢大学附属図書館長から開会の挨拶が行われ、互選により、委員長に森仁志委員を選出し、森委員長を議長として審議に入った。

古畑附属図書館長から、資料に基づき、金沢大学附属図書館について報告があり、質疑応答が行われた。

続いて、金沢大学関係者はいったん退席し、委員のみによる意見交換が行われた。意見交換後、金沢大学関係者が席に戻り、森委員長による総評と意見交換が行われた。

外部評価委員会での意見交換の詳細は「5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足」として、後日、委員から提出を受けた評価報告については、「6. 評価・提言」として、本報告書にまとめた。

なお、「6. 評価・提言」作成に当たっては、委員から提出のあった評価報告書に、文末を揃える等の若干手を加えたことを申し添える。

2016年1月7日

金沢大学附属図書館 自己点検評価報告書の概要

附属図書館長
古 畑 徹

1

1. 組織・管理・運営

○総評:概ね良好(3.25)

1-1. 将来構想・理念等:非常に良好

前回の自己点検評価における課題

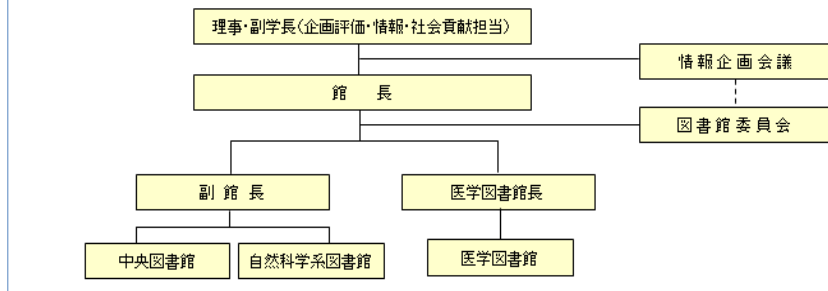
➡H21「金沢大学附属図書館基本理念と
目標」

H25「金沢大学附属図書館中長期ヴィ
ジョン」「金沢大学附属図書館短期
アクションプラン」

2

1-2. 運営組織:概ね良好

■運営組織図

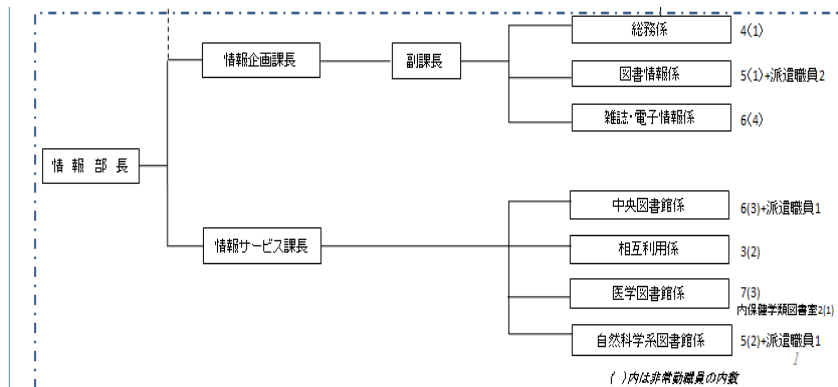


- 3地区に1館ずつ配置＝利用者の利便性
- 利用者目線に立った柔軟な運営
- 館長・医学図書館長関係の規定は一考を要す

3

1-3. 事務組織と職員:概ね良好

- 情報部が所掌一資料館・情報化推進室も所掌
- 従来からの人員数は維持
しかし、派遣職員の代替も発生➡改善を要す
- 3館の間の意思疎通は図られている



1-4. 図書館業務用システム等:概ね良好

H21. 4	図書館業務システムの利用者データをアカンサス・ポータルと連携 * 図書館の利用者データの登録作業が不要
H24. 3	図書館業務用ソフトウェアをNALISに更新。OPACに統合検索機能を追加しOPAC plusとする。
H24. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリの運用を開始
H25. 4	金沢大学附属図書館貴重資料リポジトリを金沢大学資料館ヴァーチャル・ミュージアムに統合

- OPAC plus導入で一括検索可能に
電子ジャーナルの論文単位まではできない
- 予算執行支援システムなど業務に直接関連する学内システムとの連携が不十分
➡改善の余地

5

2. 経費

○総評:概ね良好

- 図書館運営費は、一時期減少傾向が見られたが、その後回復し、概ね安定的に確保
- 光熱水料及び電子計算機借料の固定経費の割合が高い
➡将来的に電子計算機借料の模索が必要
➡H27空調改修で改善が見込まれる
- 資料費、図書費及び電子ジャーナル経費は、概ね増加—予算確保
➡電子ジャーナルの購入タイトル維持は楽観できない状態

6

3. 施設・設備

○総評:ある程度良好(2.5)

3-1. 施設:ある程度良好

- 中央図書館:

収容能力オーバー⇒書架整備・蔵書減等必要
学修支援の場の整備促進中

冷暖房設備の老朽化・集密書架改修

- 自然科学系図書館:

前回から換気・空調、照明調節の運用等に課題指摘⇒改善されていない

7

- 医学図書館

老朽化指摘⇒H24末改修

しかし、3F書庫の書架未設置

旧蔵書の自然科学系図書館仮置き

- 保健学類図書室

収容能力オーバー⇒書架整備・蔵書減等必要

* 中央図書館冷暖房老朽化⇒H27空調改修

* 医学図書館3F集密書架・ラーニング・commons・
スペースの拡充⇒H27基盤強化促進費

8

3-2. 情報・ネットワーク関連機器の設備・機器等:概ね良好

- ・ 前回自己点検評価の課題3点は改善

課題	対応状況
図書館内の利用者用パソコンについて、学生の必携パソコンの携行実態を見ながらセキュリティ確保とメンテナンスの省力化の両立を図ること	平成21年度末の中央図書館でのラーニング・commonsの設置後、情報化推進室のICTインフラ整備事業により、順次、全館の利用者用パソコンをシンクライアント化し、メンテナンスの手間を減らした。
図書館内の無線LANアクセスポイント及び情報コンセントを整備すること	情報化推進室のICTインフラ整備事業により、接続が不安定だった、全館の無線LAN環境を順次改善した。
多機能ICカードを導入すること	平成22年度から、ICカード化されている学生証及び職員証を使って、図書の貸出等の手続きが可能になった。

- ・ セキュリティ対策として、ネットワークカメラの整備を進めている
 - ➡ 自然科学系図書館のネットワークカメラ更新が必要

9

4. 情報資源・資料

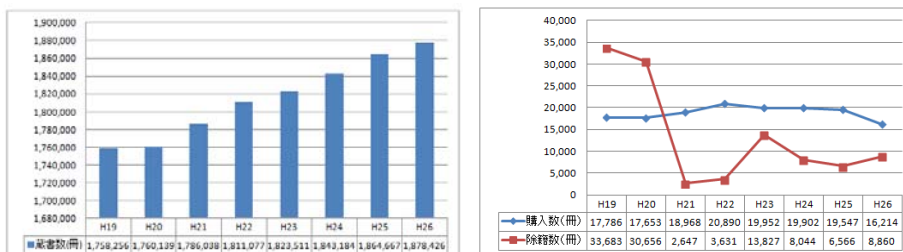
○総評:概ね良好(2.75)

4-1. 資料の収集方針と保存:ある程度良好

- ・ 資料の収集方針及び重複所蔵資料の処分方針は妥当であり、適正に運用
- ・ 書架の狭隘化は大きな問題➡工夫が必要
- ・ H26カビの発生確認➡保存管理の見直し必要

10

4-2. 図書の整備:概ね良好

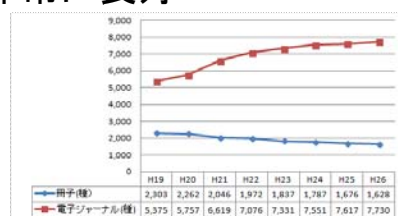


- 平成19、20年度に大量の重複資料を廃棄し、その後は定期的に重複調整
- 学生用図書費の安定確保
- 利用頻度の高い図書の複数購入が必要
- 専門性の高い図書の収集について他の研究大学などの状況を把握した上で、今後の整備に活かしていくことが必要

11

4-3. 雑誌(紙媒体)の整備:非常に良好

- 利用度の高い外国雑誌などで、バックファイルが紙媒体しかない場合に、製本雑誌の保存状態に注意

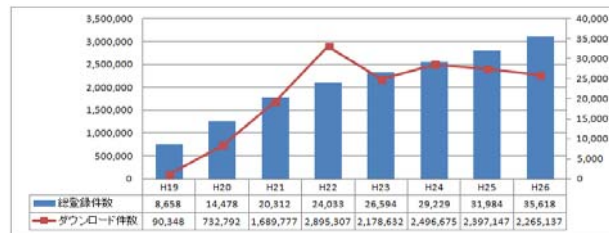


4-4. 電子ジャーナル及び二次資料データベースの整備:概ね良好

- 本学は三大大手出版社(Elsevier、Springer、Wiley)の電子ジャーナルパッケージ契約を継続
- 研究分野によっては基幹的な雑誌の購読が行われていない
- 限られた予算から学術基盤としてふさわしい購読タイトルの選定に留意し、今後の大学財政の状況に応じて、より良い負担の仕方を継続的に模索する必要

12

4-5. 金沢大学学術情報リポジトリ(KURA):概ね良好



- ダウンロード回数が横ばい状態にあるが、登録数は一定の割合で増加
- 今後のオープンアクセス化の進展に対応すべく全学的なオープンアクセス方針が必要
- 博士論文全文の登録の流れの効率化、科研費による研究成果のオープンアクセスの義務化への対応が今後の課題

13

4-6. 目録情報の電子化:ある程度良好

- 総蔵書数187万冊余のうちOPAC plus で検索可能なのは86万冊弱

理由:前身校からの継承図書・電子化以前の研究室所蔵資料等の未電子化
 ➡さらなる遡及入力が必要

4-7. コンテンツの電子化:ある程度良好

- 電子図書整備は環境学コレクション等少数
- 電子図書の導入促進が今後の課題

14

4-8. 各種コレクションの整備：概ね良好

- 第四高等学校蔵書は、本学の源流を成すものであり、本学をアピールする貴重な資料群
- 平成20年度以降では、「北陸銀行文庫」「環境学コレクション」を設置、短期間で充実

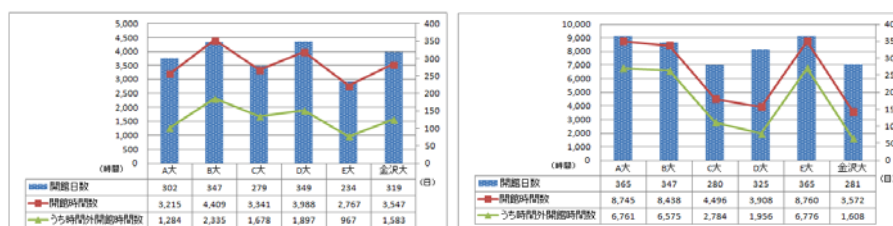
○前回の自己点検評価と比較して、6年間で電子化が大きく進展し、それによって十分に対応できない部分が出てきたものと理解される

15

5. サービス

○総評：概ね良好(3.14)

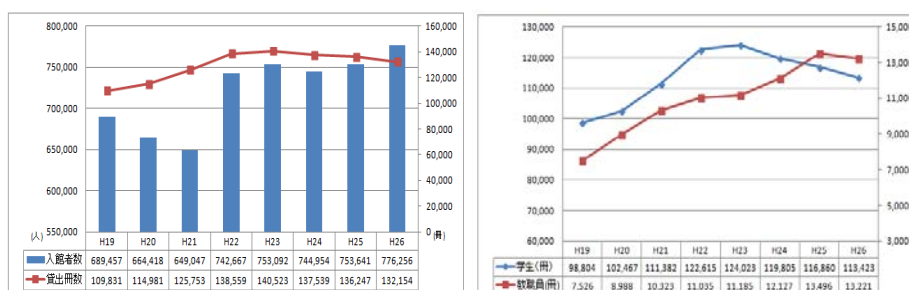
5-1. 開館日・開館時間：ある程度良好



- 中央図書館の開館状況は平均程度
- 医学図書館の開館状況については、学生サービスの観点から、開館時間数の点で検討が必要

16

5-2. 来館利用及び貸出冊数：非常に良好



- 入館者数は、平成21年度末の中央図書館ラーニング・コモンズの設置後、大幅に増加
- 貸出冊数は、学生、教職員とも前回自己点検評価より増加

17

5-3. 図書館職員が行う利用者サービスの質 ：概ね良好

- 利用者アンケートから評価
 - 窓口サービスは普通以上の満足度
 - 利用者一人ひとりを大切にしているか
 - 好意的62% ➡ 利用者個別ニーズ対応必要

5-4. ILL (他大学等図書貸借及び文献複写) ：概ね良好

- 文献複写件数が減少しているが、電子ジャーナル利用の定着と各大学紀要を含む学術雑誌のオープンアクセス化の進展によるところが大きい

18

5-5. イベント:非常に良好

- 中央図書館を中心に、各種イベントを積極的に開催、図書館施設の多様な有効活用と利用者数の拡大を意図

5-6. 広報:概ね良好

- 広報誌「こだま」・メルマガ「ひかり」・Facebook・「附属図書館概要」・リーフレット(一般向け・英文)など
- アンケート⇒公式webサイトの改善要望・「図書館の利用方法等に関する広報の充実」「留学生向け利用案内の充実」「利用者向けの読書案内の充実」の要望

19

5-7. 利用者満足度:概ね良好

- アンケートから判断
「サービスの質全般について評価をして10点満点で点数をつけてください」という質問
前回6.13 ➡ 今回7.13
- アメニティを中心に要望⇒老朽化が進む施設の改修が必要

* 冷暖房の老朽化については、平成27年度に中央図書館室内空調設備の改修。中央図書館のトイレについては、平成27年3月に2階、平成27年9月に3階の改修。

20

6. 学修支援

○総評：概ね良好(2.8)

6-1. 情報リテラシー教育：概ね良好

- 「大学・社会生活論」「情報処理基礎」の講師、職員による「レポート作成基礎講座」「文献収集法講座」、留学生対象オリエンテーション、オンデマンド講習会、ビブリオバトルなど多様な情報リテラシー教育の機会を提供
- 利用者数の少ない講習会もある
➡認知度orニーズ 今後の動向を注視

21

6-2. 学修支援制度：概ね良好

- H25より大学間連携共同教育推進事業によりラーニング・アドバイザー制度・学修支援相談所を実施
- アンケートから判断
学修支援に対するニーズは比較的多い
- 外国人留学生にも対応できる国際化が課題

* SGUによりH27後期より留学生ラーニング・コンシェルジュ制度(英文名称: Learning Concierge for International Students, 通称: LeCIS (レシス))導入

22

6-3. 学修環境:概ね良好

- H21末に中央図書館にラーニングコモンズ設置
- H24医学図書館改修で学修スペース拡充
- 学修スペースの利用者は増加傾向
- 未だ知らない学生もいる⇒広報が必要

* SGU及び国立大学改革基盤強化促進費(施設補助金)で、平成27年度に中央図書館・医学図書館のラーニング・コモンズを拡大し、自然科学系図書館にラーニング・コモンズを設置予定
⇒あとで視察してもらう

23

6-4. 学生との協働:ある程度良好

- H21図書館学生ボランティア「とぼら」設置
⇒機能しているが、人員確保・認知度・企画趣旨の明確化などに課題
- 中央図書館ではサークル・授業との連携も

6-5. 関連イベント:ある程度良好

- H24より大学間連携共同教育推進事業により図書館機能強化のための講演会等を実施
- 引き続き職員の能力向上の機会を設ける必要あり

24

7. 地域連携・社会貢献

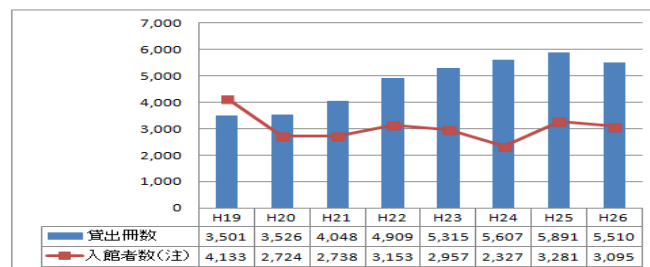
○総評:非常に良好

7-1. 県内公共図書館等との連携:非常に良好

- 石川県内図書館横断検索システム及び石川県立図書館協力宅配便事業などに参加することによって、石川県内他図書館との連携は従来より確実に強化
- 金沢大学附属図書館と県内公共図書館との相互利用件数(賃借の依頼・受付など)も年々増加

25

7-2. 一般市民の利用:非常に良好



(注)「一般利用者来館受付票」記入数

- 一般市民の金沢大学附属図書館への入館及び資料の館内閲覧は図書館利用券の発行無しで可能
- 来館者への資料の館外貸出については北陸3県在住または通勤通学者、本学卒業生等に対して実施
- 一般市民の利用が定着

26

7-3. イベント等:非常に良好

- H24からECO学習コンクール開催
 ➡北陸情報通信協議会表彰受賞
- シンポジウムは一般市民対象に大学図書館らしいもの

7-4. 貴重図書資料の提供:概ね良好

- 貴重資料のメディアへの提供や展覧会等への貸出件数は確実に増加
- 資料館と協働で本学所蔵貴重資料の公開促進について検討することが必要

27

7-5. 環境への取組:非常に良好

- H24よりいしかわ事業者版環境ISO登録事業所として石川県の登録を受け、地球温暖化防止につながる活動を継続
 ➡H26 いしかわ事業者版ISO優良活動表彰
- 実務的な環境対策ばかりでなく、環境学コレクションの充実、いしかわ環境フェアへの出展、ECO学習コンクールの実施など、多角的視点から多方面にわたる環境保全活動を展開

○角間という場所からするとよくやっている

○6年間の意識的な努力の痕跡

28

総括

- 6年間の本附属図書館の活動全体としての評価は「概ね良好」
- 従来のあり方を維持しつつも、大学図書館の新しい方向性を明確に認識し、それに向けて努力してそれなりの成果を上げた6年間ではあったが、残された課題も少なくはない
- 残された課題
 - ➡意識改革などの自助努力
 - ➡継続的な働きかけ ➡H27に成果

29

5. 外部評価委員会の質問・講評を受けての補足

平成 27 年度金沢大学附属図書館外部評価委員会（平成 28 年 1 月 7 日開催）での委員からの意見及びその対応を以下のとおり記録する。

(1) [全体]: 自己評価の対象期間を 6 年間とした理由を記載した方が良い。

「国立大学法人金沢大学自己点検評価規程(平成 23 年 3 月 18 日規程第 1555 号)第 3 条」により定期的に実施したものである。加えて、今年度は第 2 期中期目標・中期計画の最終年度にあたるため、自己点検評価及び外部評価を行い、次年度以降の図書館の活動の指針とするものである。

(2) [経費]: 図書館システムのクラウド化(サーバをなくすことによるレンタル料の削減)について

図書館システムの次期更新時には、同一キャンパス内にある総合メディア基盤センター内の仮想サーバを利用する予定であり、レンタル料の削減を見込んでいる。

(3) [情報資源]: 狭隘化対策について: どのような対策を取っているか?

中央図書館狭隘化対策 WG 検討報告書（平成 24 年 3 月 12 日作成）で示された対応策のうち、書架の増設やそれに伴う資料の再配架、自然科学・技術・工学系図書や本学の前身校の一つである旧金沢工専図書の自然科学系図書館への移動などを行っている。今後も①重複資料の除籍等による既存の蔵書の削減 ②電子的資料の導入による紙媒体資料の受入数の削減 ③書架の棚板の組み替え等による収蔵能力の増加 を念頭におき対応策について検討を行う。

(4) [情報資源]: カビ対策: どういう対策を取っているかも記載すべきである。

現時点では、図書館職員によるカビふき取り作業を行うほか、湿度管理の徹底のため機器調整を行っている。燻蒸の機会を増やすことも計画中である。

(5) [サービス]: 3 館の特性について明記したほうがよい。

各館の特性については、それぞれが所在するキャンパスに設置されている学域・研究域

の分野によるところが多いが、名称だけではわかりにくいため、今後はその特性を明確に
していくことを検討する。

(6) [サービス]:(資料 8)でアンケートの実施方法についての記載や、調査票が必要

外部評価報告書作成にあたり追加した資料 22「利用者アンケート実施要領及び設問」
を参照。

**(7) [サービス]:アンケートの回答について 9 段階評価か 10 段階評価か、揃えるべ
き。**

前回の自己点検評価報告書（平成 20 年度）作成の際、「LibQUAL」（米国 ARL (Association
of Research Libraries) 提供)により利用者アンケートを実施したが、海外の大学向けの仕
様であったため、本学図書館にはそぐわない設問が多く、今回は使用しなかった。ただし、
一部の設問については、回答を比較するために継続して設問とした。比較するための平均
値を算出するために、9 段階評価の「LibQUAL」にあわせて、今回の点数評価を「満足：9
点」「やや満足：7 点」「普通：5 点」「やや不満：3 点」「不満：1 点」とした。

なお、本文 p. 46 中に「10 点満点」と記載しているが、正しくは「9 点満点」である。

**(8) [サービス]:アンケートの中の「一人一人を大事に」という設問の意図について
（「そもそも図書館は、一人一人に個別に対応する機関である必要があるのか」とい
う疑問）**

本学図書館の「基本理念と目標」において

“金沢大学憲章に謳われた「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という本学
の理念を支え、「卓越した知の創造」と学生の「自学自習」を促進するために、学
術情報資源の収集、整理、保存、発信に力を注ぐとともに、一冊の本、一人の利用
者たりともおろそかにしない万全のサービスを具体化する”

と掲げられており、利用者の多様な要求に応えるよう心がけている。

また、前回の LibQUAL の質問に含まれている設問であるため、比較するために今回も設
問に含めた。

**(9) [サービス]:アンケート調査において「ふつう」という回答については「好評価」か
らはずすべき。**

今後のアンケート実施の際の留意点とする。

(10) [サービス]: 医学図書館で 24 時間開館を未実施な理由について

- ・資料の電子化が進んだ現在では、資料の閲覧に対するニーズが少ないとも考えられる。
- ・24 時間開館を実施する場合には、空調を稼働するなどの環境整備が必要になるが、少人数のために対応することが本当に必要か検討する必要がある。
- ・国家試験対策として、グループで討議しながら学修することのできるグループ学修室などを提供しているが、講義棟にも 24 時間利用可能な同様の小部屋があるため、医学類としては学修スペースを十分提供できている。

(11) [学修支援]: 図書館員が担当している授業の成果についても記載した方がよい。

長期的な成果をどのように把握するか、今後の検討課題としたい。

(12) [学修支援]: サイエンスカフェなど図書館主催イベント以外についても記載した方がよい。

イベント数が多くすべては記載できないが、主だったものについては記載するなど、統計や記録の方法も含め検討したい。

6. 評価・提言

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 森 仁志

1. 組織・管理・運営

附属図書館基本理念と目標に従って、組織の運営自体は順調に進んでいるように思われる。運営組織の構成は各大学によって独自の歴史と経緯が反映しているであろうから、簡単にはコメントしにくい。附属図書館職員の意見・要望よりも各部局教員の意見・要望に応えることは難しいであろうが、対応する姿勢は認められる。職員の人員削減は各大学で行われているが、図書館職員は事務職員とは違って、数だけではなく、本来、専門的知識を持ったライブラリアンであることが望まれる。そのためにも研修等で特に若い世代の能力向上を図る必要がある。この点に関しても企画されているようなので今後の発展を期待したい。

2. 経費

附属図書館には、附属図書館自体に資金を集める基本的な手段は少ない。附属図書館には、研究者のように研究のために科学研究費のような外部資金に申請する戦略がとりにくいということである。同窓会等からの寄付金には期待したいところであるが、毎年、恒常的に獲得することは難しいだろう。

また、大学運営経費の配分は基本的に大学執行部・学長の判断に依存することになる。従って附属図書館には、大学執行部に対して、理解を得られるように説明を尽くして要望する努力が求められる。経費に関しては 3. 施設・設備、4. 情報資源・資料と関わっているので以下に記す。

3. 施設・設備

施設・設備で大きく問題になるのは、空調費の節約と書庫・書架に関する経費の調達であろう。空調費を抑えるためには、老朽化した設備を消費電力が改善された設備に更新することが効果的である。実際に平成 27 年度に空調機が改修されたようなので経費の削減は期待できる。

照明費に関しても電力削減が期待できる LED に順次改修するべきであろう。4. にも関わりますが、平成 26 年度に資料にカビが発生したことは、保存状態の管理に問題があったかもしれないが、基本的に湿度の問題である。燻蒸して対応するだけでは本質的な改善にならない。空調設備の改善を図らなくてはならない。

ネットワークカメラの整備はセキュリティ対策としては重要である。自然科学系図書館のネットワークカメラが老朽化している点は問題であり、改善が必要である。

トイレが改修されたことは望ましい。この点は私立大学に比べて国立大学は改修が遅れがちである。これは単なる精神論ではない。学習環境として重要である。

書庫の狭隘化は設備に関わる各大学における重大な問題であり、4. や 5.、6. にも関わる問題である。

4. 情報資源・資料

この件に関して大きな問題は、書庫の狭隘化と電子ジャーナルである。書庫の狭隘化は主に人文系の問題であり、電子ジャーナルは主に理系の問題である。

書庫の狭隘化を解消するために東海北陸地区では共同書庫を設置するための予算を獲得すべく努力している。各大学が個別に書架の要求を行っても昨今の状況では採択されることは難しい。新しい書庫が設置されるまでの間は、可能な限り重複所蔵資料を除籍するしかない。この点に関しては適切に運用されており評価できる。各大学附属図書館とも、教育や研究基盤を充実させることを使命として、蔵書数を増やしてきたことを考えると、本末転倒のような気もするが、限られたスペースの中ではやむを得ない。将来的には電子書籍にシフトして行かざるを得ないと感じる。一方、東海北陸地区の共同書庫の概算要求が採択されても運用するための維持費・経費の問題は残されている。採択されることを前提として共同書庫の運用方法について、今から各大学間で協議することが必要である。

さらに当面解決しなくてはいけない課題として、医学部旧書庫の蔵書が、自然科学系図書館保存書庫に仮置きされている点が残っている。できるだけ早く対応すべきである。

電子ジャーナルは特に理系にとって学術基盤・インフラとして不可欠である。ましてや第三期中期計画における重点支援枠③を選択した大学として、大手出版社のパッケージ契約を維持し、学術基盤の充実を図ることは重要である。総合大学が研究成果を出すためには、購読希望数の多いタイトルだけを維持すればいいわけではなく、希望数が少ない研究分野も考慮する必要がある、悩ましい点である。適切な電子ジャーナルの選定方法を考える必要がある、期待したい。購入経費の配分も各大学の悩みである。各部局の要望に依存して分担を決める方式では破綻が起こる可能性は高い。電子ジャーナルの価格は高騰の一端をたどっており、問題が表面化する前に対応案を策定しておくべきである。

5. サービス

この件に関しては、空調と開館時間が挙げられる。中央図書館の空調に関しては平成 27 年度に改善されたが、トイレと同じでこの点は精神論ではすまない。自然科学系図書館は一部フロアが吹き抜けになっていた。デザインとしてはいいかもしれないが、空調効率はあまりよくないと推測できる。簡単に修繕できないが、少しでも改善できるならば検討することが望ましい。

開館時間に関しては、アンケートを見ると平日の早い開館、土曜日の開館時間の延長、日曜日・祝日の開館の要望が学生から出されている。人件費の問題もかかわってくるので安易に対応しにくい、図書館が学習環境の「場」であるとするれば、可能な限り対応する努力が求められる。24 時間開館の要望は中央図書館、自然科学系図書館の利用者からもよく出される。しかし、空調経費は無視できず、セキュリティの面でも賛同できない。深夜図書館にいたことが、昼間の講義の理解にあまり効果的とは思えないので、安易に対応する必要はないと感じる。

医学図書館利用者からも開館時間を長くしてほしいとの要望がでている。医学部は、日中は必修講義が多く、勉学は夜にすることになるので、ある程度の延長は必要と思われる。開館時間と共に座席数、個室の要望も医師国家試験対策のための要望かもしれない。学生・利用者に対するサービスを考えれば、検討する必要性は高い。

6. 学修支援

学修支援の件に関しては図書館に設置されたラーニング・コモンズという「空間」・「場」で、図書館職員がどのような支援を行っているかという点が評価すべきことになる。情報リテラシー教育の講義や様々な講習会を開催している点は評価できるが、必ずしも参加する学生が多いとは言えない。どのような講習会を開催するか、学生が何を望んでいるかを把握することが課題であろう。

図書館は会話のない静かに勉学する場であったが、複数の学生が情報を共有し議論をして勉学を発展させる場であるラーニング・コモンズは、これまでの図書館のイメージを変えつつある。ラーニング・コモンズを有効に機能させるためには能動的学習・アクティブラーニングを、教員が積極的に授業に取り込み、学生に認識させることがひとつの方法と考えられる。アクティブラーニングの議論をすると図書館職員のエネルギーが伝わってくるが、最も重要な点は教員の理解・認識である。どのようにして多くの教員にラーニング・コモンズを利用したアクティブラーニングを伝えるか、その方法を検討する必要がある。

7. 地域連携・社会貢献

県内公共図書館との連携がうまく定着しており、一般市民の安定した利用が続いていることは評価できる。一方、所蔵貴重資料は地域の歴史的文化を反映するものであり、提供、貸出件数のさらなる増加が望まれる。貴重資料の電子化は進めていただきたいが、前身校から引き継いだ蔵書の遡及入力についても進める必要はある。

8. 総合評価

総合的に判断すれば、概ね良好な状況であるといえる。どこの大学でも解決すべき課題を持っていない大学はない。根本的な問題は財源である。図書館の課題の解決に必要な財源を確保するためには有効な手段は少ない。附属図書館は大学教育の根幹を支える重要な

機関であることを、大学執行部に認めて頂くように根気強く説明するのが図書館の使命の一つであると考えます。一方、図書館職員は大学教育を支えているという自覚を持ち、専門職員としての誇りを持って業務に取り組んでいただきたい。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名：仙石正美

1. 組織・管理・運営

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 場所の離れた 3 館をとりまとめるご苦労は、よく理解できる。

2. 経費

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 国の交付金削減の傾向が続くと思われるが、資料費の確保は研究の生命線である。そのためにも、クラウド化など経費削減の工夫と研究支援補助の申請など収入増を図られたい。

なお、省エネをはじめとする環境分野の取り組みについては、研究機関である大学は一般社会の一步先を行く「先導者」の役割が期待されていると考える。照明の LED 化に関しては、事業所等においても取り組みが進んでいることから、経費または施設・整備のいずれかに記載すべきではないか。

3. 施設・設備

(評価) 評語：ある程度良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 前回の点検評価結果を真摯に受け止め、トイレ改修をはじめ課題とされた施設改善に関して、年次計画で取組んだことを高く評価したい。

また、書架収容率を超えていることから、今後とも、解消に向けて検討を続けられたい。

4. 情報資源・資料

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 電子ジャーナルをはじめヴィジョンに沿って電子化を進めており妥当と考える。こうしたなか、一部電子化されていないデータがあることから、鋭意入力作業を継続し検索性の向上に意を用いてほしい。

なお、電子化の進展については、6 年前の点検評価時点では現在の状況を想定できておらず、6 年スパンでの評価の難しさを感じる。今後、科学技術など進歩が著しい分野では、中間時点での評価などが必要かもしれない。

また、開架部分でのカビの発生は、いわば開かれた図書館の宿命でもあることから、今後の対策に力点を置き記載してもらいたい。

5. サービス

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 利用者アンケートについて実施手法などを記載した方がよい。

また、図書館概要を隔年から毎年に変更し、さらなる情報提供に努めていることは、図書館の取組姿勢として高く評価したい。

なお、医学部図書館の開館時間延長・24時間開館については、医師国家試験対策が主であれば、現行の医学部施設内での対応が適当ではないか。

6. 学修支援

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 留学生や1年次の学生など、まだ大学生活に馴染んでいない学生への支援が行き届いていると感じた。学修支援は、地道だが大学の底上げに繋がる取組みだと考えるので、今後とも続けてもらいたい。

7. 地域連携・社会貢献

(評価) 評語：非常に良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 平日は夜10時まで開館し仕事を持った市民にも開かれた図書館を実践し、市民の生涯学習に大きく貢献しており高く評価できる。

8. 総合評価

(評価) 評語：概ね良好とした自己点検評価は妥当

(コメント) 委員構成が学識・事務双方で構成されていること、また、WGとの二段階で点検評価を実施しており、前回よりも緻密になったと感じる。

また、規程等に基づき「6年」ごとに点検評価を実施しているとのことだが、学外に向けて6年とした理由を記載した方がよい。

最後に、本市においても、部局ごとに事務事業の点検評価を行い、一部で外部評価も実施しているものの、単年度主義に基づく前年比較が主である。6年という中期スパンで実績を評価し今後の方向性を見極めるなどしており、大変進んでいると感じる。今後とも、知の拠点として雄飛されるよう願う。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 山田政寛

1. 組織・管理・運営

概ね良好と考える。将来構想、理念の公開は望ましいため、高評価であるが、学習支援を考える際、学務系との有機的連携が必要となる。この点については今後の検討材料であろう。

2. 経費

非常に良好と考える。電子ジャーナルの件は今後の課題も残しながらも、3 年間はパッケージを解約せずに使用するなど、大学の研究支援に貢献していると考ええる。

3. 施設・設備

概ね良好と考える。中央館の老朽化の問題はあるものの、国際化対応も積極的に動いていることは高い評価となる。しかし、どういうコンセプトのものなのか、具体的なスペースデザインがわからないので、今後の検討材料であろう。

4. 情報資源・資料

概ね良好と考える。電子ジャーナル以外にもリポジトリの充実化もなされている。今後の展開は不透明だが、東海・北陸地域で共同書庫を用意する構想などが展開していることは望ましい方向と言える。

5. サービス

非常に良好であると言える。研究活動のオープン化だけではなく、イベントの開催を積極的に行っている。今後は、図書館管轄外のイベントでも、図書館の実績となるため、カウントをすること、図書館と共催とすることも検討に入れると良いと思われる。また広報活動の評価を行い、図書館外の学生に対する広報チャネルを活用することが望まれるだろう。

6. 学修支援

概ね良好と言える。教員や大教センターと連携して、学習支援を行っていること、国際化対応など積極的な姿勢が伺える。しかし、広報活動が若干弱く、学習支援の利用者の伸びが弱いように思われる。来年度から新カリキュラムでの授業が始まることから、積極的に授業との連携が求められる。

7. 地域連携・社会貢献

非常に良好と思われる。ECO 学習コンクールのモデルになるなど、国立大学附属図書館と

して、十分に役割を果たしていると思われる。

8. 総合評価

概ね良好と思われる。

施設の老朽化、組織、広報について、多少の課題や今後の展開が不透明な点もあるが、国際化対応、デジタルリソースの充実化など、附属図書館の役割を十分に果たしていると考えられる。今後も、継続的に時代の変化を早く捉え、迅速な意思決定と行動で、国立大学附属図書館の中でもリーディングしていく立場となることを願っています。

平成 27 年度金沢大学附属図書館 評価報告書

委員氏名： 高島 学

1. 組織・管理・運営

「概ね良好」

「理念と目標（資料 2）」「中長期ビジョン（資料 3）」「短期アクションプラン（資料 4）」が策定されている点が高く評価できます。また大学の目標である「YAMAZAKI プラン 2014（資料 5）」に盛り込むことができています点も同様です。

評価期間の最後でのスーパーグローバル大学創成支援事業の推進と第 3 期中期目標・中期計画において金沢大学が、大学の将来ビジョンに基づく機能強化の推進の「重点支援③ 主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」としたことを考えると「理念と目標（資料 2）」「中長期ビジョン（資料 3）」「短期アクションプラン（資料 4）」を改定する必要があります。

専門職員数が減っていることは、上記の大学の目標に対応することに支障をきたさないか懸念されます。人数に加えて職員の能力向上のための方策も検討してください。

2. 経費

「概ね良好」

電子ジャーナル経費について「選定基準（資料 1 5）」を策定したこと、予算獲得の努力が行われていることは評価できるが上記の大学の目標を達成するための予算額には十分とはいえないのでさらに努力が必要です。

運営費交付金が削減されるなか、確実に予算を獲得している点は評価できます。

為替変動や新たな税負担により状況は悪化しているので、より丁寧な要望の収集と資料のパフォーマンス分析手法、よりコストパフォーマンスの良い資料入手方法の検討が必要です。分析には Web of Science、Scopus を利用した手法の開発が必要なのでは。

3. 施設・設備

「ある程度良好」

医学図書館は改修により解消しているが、他の館は経年による不具合があるので継続しての改善が必要となっています。

4. 情報資源・資料

「概ね良好である」

電子ジャーナル、データベース、学生資料については良いようですが、保存関係を改善する必要があるようです。施設の改修と共同保存書庫が有効だと思います。

リポジトリの活動は評価できます。目録情報の電子化はまだ残りがあるので資料の活用のために計画的に行う必要があるようです。

この期間ではあまり無かったのかもしれませんが、電子ブックの導入・分析も必要と思います。まだ良い導入のモデルがありませんが、電子ブックは狭隘化解消の一助になるかと思っています。

5. サービス

「概ね良好」

ラーニング・コモンズの整備が利用を増やしていますし、講習会等も多く開催している点が評価できます。

平成21年に自然科学系図書館の特別開館を中止していますが、影響の分析があるとより良かったです。省エネの必要性もあるので開館時間の適切な設定は大きな問題です。

アンケートの自由記述でサービスのばらつきについての言及が散見されます。このあたりのフォローアップが必要だと思います。要望はばらばらですので、大変ですが、ケースごとの対応が必要です。

6. 学修支援

「概ね良好」

いろいろな取り組みを行っているので評価できます。ラーニング・アドバイザーや図書館学生ボランティア制度は学生支援としても有用と思われるので関係部署との連携ができるとより良いのでは。

7. 地域連携・社会貢献

「非常に良好」

遠隔地である点などの条件下でよく連携・貢献できていますので、これを利用者サービスに結びつけることができるとさらに良いと思われます。所蔵貴重資料等を提供した成果を把握できると良いと思います。

8. 総合評価

「概ね良好」

いろいろな試みを行っていて評価できます。労力がかかりますが、その成果を把握してさらに効果的な試みにつなげることができると良いと思います。

大学がグローバルに向かうことへの対応をどのようにするかが大きな問題です。以前の図書館職員に求められなかった能力が求められます。職員の養成が大きな問題だと思います。

7. 平成 27 年度金沢大学附属図書館自己点検・外部評価実施要領

図書館委員会 平成 27 年 8 月 25 日承認

(目的)

- 1 この要領は、自己点検・評価の実施及びこれに基づく外部評価の受審により、第 2 期中期目標・中期計画期間中の金沢大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）の活動を点検・評価することによって、次期中期目標・中期計画期間中の附属図書館の活動の改善を図り、もって金沢大学のより良い情報環境の構築に資することを目的とする。

(WG の設置)

- 2 平成 27 年度附属図書館自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という。）の実施及び外部評価の受審のため、金沢大学図書館員会規程第 7 条に基づき、図書館委員会に附属図書館自己点検・評価ワーキンググループ（以下「WG」という。）を置く。

(WG の構成員)

- 3 WG の構成員は、別紙 1 のとおりとする。

(外部評価委員)

- 4 外部評価を実施する委員（以下「外部評価委員」という。）は、WG の推薦に基づき、図書館委員会の議を経て附属図書館長が委嘱する。

(評価対象期間)

- 5 自己点検・評価及び外部評価の対象期間は、平成 20 年度から平成 26 年度までとする。

(評価項目)

- 6 自己点検・評価の項目は、次のとおりとする。
 - (1) 組織・管理・運営
 - (2) 経費
 - (3) 施設・設備
 - (4) 情報資源・資料
 - (5) サービス
 - (6) 学修支援
 - (7) 地域連携・社会貢献

(自己点検・評価報告書)

- 7 図書館委員会は、平成27年11月までに自己点検・評価の結果を報告書（以下「自己点検・評価報告書」という。）に取りまとめるものとする。

(外部評価報告書)

- 8 外部評価委員は、自己点検・評価報告書に基づき評価を行い、その結果を外部評価報告書として取りまとめ、附属図書館長に提出するものとする。

(報告・公開)

- 9 附属図書館長は、外部評価の結果を図書館委員会に報告するとともに、自己点検・評価報告書及び外部評価報告書を附属図書館のウェブサイトで公開するものとする。

(スケジュール)

- 10 自己点検・評価及び外部評価の作業スケジュールは、別紙2のとおりとする。

(事務)

- 11 自己点検・評価及び外部評価に係る事務は、情報サービス課の協力を得て、情報企画課が行う。

(雑則)

- 12 この要領に定めるもののほか、自己点検・評価及び外部評価に関し、必要な事項は、附属図書館長が別に定める。

附 則

- 1 この要領は、平成27年8月25日から施行する。
- 2 平成27年度附属図書館自己点検・評価実施要領（平成26年12月26日図書館委員会承認）は、廃止する。